

令和8年1月 定例教育委員会

日 時 令和8年1月22日（木）15時00分～

場 所 市役所5階 庁議室

出席者

（教育委員）

陣内教育長 松野教育長職務代理者 古賀委員 中村委員 西沢委員

（事務局）

井上教育総務部長 鳩山学校教育部長 木下学校教育部次長兼学校教育課長 稲葉学校教育部次長 藤川学校教育部次長兼学校保健課長 溝口総務課長 伊東学校教育課主幹 大田学校保健課主幹 高橋スマート・スクール・SASEBO推進室副室長 徳永総務課長補佐兼庶務係長 太田新しい学校推進室副主幹 松本スマート・スクール・SASEBO推進室係長

欠席者 なし

傍聴者 なし

内 容

(1) 教育長報告

(2) 令和7年11月分 議事録確認

(3) 議 題

- ① 鹿町地区統合に係る新設予定校の校名案決定の件（新しい学校推進室）
- ② 佐世保市教育委員会職員服務規程の一部改正の件（学校教育課）
- ③ 佐世保市通学区域審議会に付議する西地区における諮問事項の件（学校教育課）
- ④ 佐世保市通学区域審議会に付議する鹿町地区における諮問事項の件（学校教育課）
- ⑤ 学校教育審議会にかかる諮問内容等の件（学校保健課）

(4) 協議事項

- ① 佐世保市第4次教育の情報化推進計画（スマート・スクール・SASEBO構想NEXT）
（案）策定について（スマート・スクール・SASEBO推進室）

(5) 報告事項

- ① 学校教育審議会答申について（学校教育課）
- ② 令和7年度市立小・中学校及び義務教育学校卒業式（教育委員会答辞）への出席について（学校教育課）
- ③ 特別な教育的支援を必要とする就学予定児、学齢児童及び学齢生徒の就学の件（学

校教育課)

(6) その他

① 次回開催予定について

◆教育長報告

- 12月26日 文部科学大臣表彰伝達
- 1月5日 仕事始め式
- 1月11日 第74回 小柳賞佐世保シティロードレース大会
令和8年成人式典
- 1月13日 総合教育会議
- 1月16日 教育フォーラム
- 1月17日 佐世保市青少年育成研修会

(1) 教育長報告・議事録確認

【陣内教育長】

皆さんこんにちは。

それでは1月の定例教育委員会を開催させていただきたいと思います。

12月の定例教育委員会の後でございますが、まず1つ嬉しいお知らせでありまして、木風小学校の学校医をしてくださっております。福田俊郎先生が、学校医の部門で文部科学大臣表彰を受賞されております。12月26日に伝達にお伺いしました。とてもいい話題が入ってきました。

それから1月5日に仕事始め式を行いました。課長や課長補佐たちと一緒に、令和8年度はこんなことができればいいねという夢を一緒に語りました。

それから1月11日は、皆様にもご出席を賜りまして、成人式典を開催しました。午前中は小柳賞ロードレースがございました。

成人式典は、昨年と比較して今年は式典の会場の方にもたくさんお見えになってくださいました。話も本当に真剣に聞いてくださってましたし、代表者の誓いの言葉もとても良かったです。態度もいいし中身もとてもいい会だったなあと思い嬉しくなりました。

それと市長の話が、去年の特攻隊の話もそうでしたが、今回の話もとてもいいお話で、20歳を迎えられる花向けとして最高の話を毎回してくださるなあと思っております。

それから1月13日は、市長主催の総合教育会議が開催されました。今回は初めての試みとしまして校長会や保護者の代表の方、それから地域の代表の方々にもご参加いただきまして、生の声を聞かせていただきながら、本当にフリーで様々な角度からの討議ができてよかったなと思っております。市長からも、「いい会だったね、いろんな話が聞けてよかったね。」という言葉をいただいております。

それから1月16日は教育センターで、教育フォーラムを開催いたしました。教育センターに継続研修で通って深く検証している方々の研究発表を中心にしまして、また研究発

表も後半はオープンショップにして自由に出入りして討議をしていくような、実利の高い研修会をすることができました。嬉しかったのは、特に若い方が多かったのですが、授業改善に関する熱意ですね、「授業をこんなにしよう、こんなによくしよう、子どもたちをこうしてあげたい。」という熱意がものすごく、圧倒されるような会でした。教育センターを中心に準備してくれて、本当に大変だったろうなと思いますが、情熱がたぎっているという、素晴らしい会でした。ありがとうございました。

それから1月17日は、佐世保市青少年育成研修会が開催されました。これについても8校の中学校から代表の皆さんがお見えになりまして、シンポジウム形式だったのですが、自分の住んでいる学校地域のいいところや課題、それから佐世保市をどうしたいのか、地域課題をどう解決していくかというテーマで、正解のない最適解を探求していくという趣旨の会でした。本当に子どもたちをどう育てるかというのが変わってきたなど、いい方向に変わってきているなと思い、嬉しかった会でした。

以上でございます。

それでは議事録の確認を行いたいと思いますが、11月分の議事録についてはよろしかったでしょうか。

【全教育委員】

はい。

【陣内教育長】

ありがとうございます。

それでは議題に入りたいと思います。「鹿町地区統合に係る新設予定校の校名案決定の件」についてお願いいたします。

(2) 鹿町地区統合に係る新設予定校の校名案決定の件

【井上新しい学校推進室長】

議題資料P1～P4により説明

【陣内教育長】

ありがとうございました。お尋ねはございませんでしょうか。

【松野教育長職務代理者】

参考資料2のところに全体で212件の応募があったと思うのですが、その中で鹿町小中学校が64、鹿町学園が10、鹿町鹿鳴館が6とありまして、この内訳といたしますか、

児童生徒とか地域住民とかの割合を教えてくださいませんか。候補の3つだけで結構です。

【井上新しい学校推進室長】

3つの校名案の応募の内訳でございます。

まず鹿町小中学校で応募された64名の内訳でございます。児童生徒の応募が46名、地域住民の方が12名、鹿町出身の方が4名、学校PTAの方々が2名、合計64名でございます。

次に鹿町学園につきましては児童生徒が8名、地域住民の方が2名、鹿町出身の方・学校PTAの方は0名、合計10名でございます。

次に鹿町鹿鳴館の内訳でございますが、児童生徒が0名。地域住民の方が5名、鹿町出身の方は0名、学校PTAの方が1名、合計6名でございます。

【陣内教育長】

学園という名称を使っているのが黒島小・中学校が「はまゆう学園」という愛称をつけ自分たちで使っています。それから、小佐々地区の小佐々小学校・楠栖小学校・小佐々中学校が「海光る町学園」という名前を使っています。ただあそこは義務教育学校ではなくて、3つの学校を一貫型で一緒に連携してやりますよというグループ名として使われています。

ですので、条例とか文科省へ届出ている名称として、「学園」は今のところ佐世保市内で使っているところはないという状況ですね。

ただ、使うことに関して特に制限はありませんので、使うことが問題ということでもありません。

【中村委員】

今報告されたように、鹿町小中学校が64と一番多いけど第2候補となっていて、鹿町学園は10票しかないけど第1候補となっています。協議の中で順位をつけられたということで、理由は先ほど9年間のまとまりを感じるというのがあったのですが、委員さんの中ではどれぐらいの熱で、この票の数をひっくり返して、10票しかなかった鹿町学園が1位になったのかというのを、様子を教えてくださいたいと思いますがいかがでしょうか。

【井上新しい学校推進室長】

非常に悩まれました。最初の流れはやはり票が多い鹿町小中学校というようなところで、第1候補の流れがあったのですが、ご意見として、長与町の高田学園というのがあったよねということで、そこから学園についての議論が始まっていき、一体感があるイメージがあるというご意見があり、第1候補になった流れでございます。

熱量については、やはり皆さん最終的には「学園」という思いで1つになったというふうに思っております。学園に対する思いは強かったと私は感じております。

【中村委員】

1つにまとまったうえで第1候補にひっくり返ったというふうに理解してよろしいでしょうか。ありがとうございます。

【西沢委員】

募集したのは、校名だけですか。それともその校名にかかる理由や思いを、書く形で募集したのでしょうか。個別の意見の熱量とかも知りたいなと思った次第です。

【太田新しい学校推進室副主幹】

名称と、そして理由も記載するように作っております。

【西沢委員】

今すでに資料の中に挙がっているもの以外の理由は出せませんでしょうか。大体この4つでしょうか。

【太田新しい学校推進室副主幹】

それぞれの思いについてもこちらの方で記録を取っております。多い順にいくつか例を申し上げます。

鹿町小中学校の理由といたしましては、一番多くあるのが、鹿町にある学校だからという理由が一番多くございます。これは児童生徒にかかわらず、地域住民の方も、同様の理由で記載してあるものが多くございました。

【陣内教育長】

小中学校と学園の違いに関わるような理由はありませんか。

【太田新しい学校推進室副主幹】

小中学校というところについての特段の理由というのは、あまり、鹿町小中学校の中に記載はされておりました。

鹿町学園につきましては、子どもたちの意見の中で、鹿町にある学校だから、中学校は小中学校だったら前とほぼ同じ名前だからということで、学園の方がいいという意見を記載しているところがございます。ここも学園というところにこだわったような理由はあまり多くは記載がありませんでした。

【西沢委員】

皆さん特に小中学校とか学園というフレーズ自体に大きな理由はなく、学園がどちらかという新しくまとまりがあるからという感じですね。

【古賀委員】

この応募総数の児童生徒の154名は、すべての在籍人数と差はどうか。

【太田新しい学校推進室副主幹】

一応学校の方に投げかけて、協力していただいているのですが、全員というわけではございません。

【古賀委員】

何名中154名かわかりますか。

【太田新しい学校推進室副主幹】

数の方は把握しておらず、申し訳ございません。

【中村委員】

先ほど井上部長からご説明をいただきましたので鳩山部長へお聞きしたいのですが、この校名検討委員会には同席されていたのでしょうか。

【鳩山学校教育部長】

同席しておりました。

【中村委員】

先ほどと似たような質問で恐縮なのですが、鹿町学園をここで第1候補と出してこられたということは、その校名検討委員会の皆様は、第1候補に決まることを期待して出されたのか、どちらでもいいなというような雰囲気が出されたのか、同じ熱量の話になるかもしれないけれども、どういう経緯でこれが選ばれたかということも含めて、もう一度お知らせいただければ幸いです。

【鳩山学校教育部長】

委員として参加しながら概要を見させていただきました。おそらく鹿町小中学校になるだろうなという空気としてはあったように私は感じておりやはり鹿町小中学校は候補の1つではありました。そのような中で、先ほど井上部長からもあったのですが、高田学園のお話ですとか、全国の義務教育学校の中に学園という名前がついている学校が結構な数あるというような状況の中で、どれを第1候補にするかという議論になったときに、学園をついた方が、小中学校を分けたような考え方よりも、9学年をひとまとまりとしてとらえるうえで良い名称ではないかという意見が出されました。その場では、全会一致に近いような状況で、学園を第1候補で推そうという話の流れになったように記憶しています。

【中村委員】

全会一致に近いということがよく分かりました。ありがとうございます。

【陣内教育長】

皆様にお話ししたいのですが、今回学校統廃合いろんな学校で進めている中で、校名設定のフレームとして、まず公募をして、地元の皆さんに、2ないしは3の候補を選定していただいて、それに基づいて教育委員会が決定するというフレーム自体が、地元の皆さんの意見を大切にしたいという思いから、このようなフレームになっているのだろうと思います。今、2人の部長から報告があっているように、地元の検討委員会で大変強く学園という名称にこだわられているというところは、一定尊重しなければならないのだろうと思います。

それを尊重しないのであれば、そもそも地域にしっかりとこのように集まって決めていただく意味もないこととなりますので、そこはそうだろうと思います。

そのうえで、あと私どもがそこに異を唱えることがあるとすれば、ここで、今までほとんどの学校が黒島小中学校とか浅子小中学校のように小中学校という名前を使ってきたので、ここで鹿町学園とすることによって、その他の弊害が発生する可能性があるのかどうかです。

これを学園と小中学校が混在することによって、弊害が発生するようであれば地元の方のご意見はこうかもしれません、こういった弊害が考えられるのでという、考え方・判断をしなければならないと思うのですが、その辺り事務局の方で、今回から鹿町学園という名称が混在するようになった場合の弊害というのが何か考えられますか。

【井上新しい学校推進室長】

手続き上は問題ないということで確認をとっております。

【鳩山学校教育部長】

学校教育部としても弊害となることは思い浮かびません。

【陣内教育長】

そうであれば制限する必要はないですね。

【松野教育長職務代理者】

愛称がある学校もあるものですから、確かに学園という校名にしたいというお気持ちがあれば、それはもう検討委員会の中で議論されたことですから、それでいいかなと思います。

【陣内教育長】

愛称としてではなく、校名として強い熱量があったということですね。

【井上新しい学校推進室長】

その時点で愛称という形での議論は、一切行われておりません。あくまでも正式な校名という形での議論と決定でございました。

【陣内教育長】

地元の委員さん方の中では、校名として学園という名称を使って新しいものを作り上げていきたいという熱意がございましたということ、そして今回初めて佐世保市内の義務教育学校で、学園という名称の学校が誕生することになるかもしれませんが、それに関わった最初の戸惑いというのは当然どんな名称もあるのかもしれませんが、運用上特に想定できる課題がないということで、地元の検討委員会の熱意に期待して、鹿町学園という名称を案とするということによろしいでしょうか。

【全教育委員】

はい。

【陣内教育長】

ありがとうございます。

それでは次の議題に入りたいと思います。

（３）佐世保市教育委員会職員服務規程の一部改正の件

【木下学校教育課長】

議題資料（当日配布）P 1～P 2により説明

【陣内教育長】

ありがとうございました。ご質問とご意見を合わせてお伺いしたいと思います。

【古賀委員】

預かり保育時間が1時間延長となるということで、その延長料金は据え置きのままだったと思うのですが、間違いなかったでしょうか。

また、先日前お伺いしたときは、入園を決定しているのが1名と聞いたのですが、その後現時点では何名になられたのかを教えてください。

【木下学校教育課長】

1つ目の延長料金につきましては、変更はございません。2つ目のことにつきましては担当から回答をいたします。

【伊東学校教育課主幹】

2つ目に関しては前回と変わらずでございます。

【古賀委員】

4月のスタートが11名だったかと思うのですがいかがでしょうか。

【伊東学校教育課主幹】

10名になっております。

【陣内教育長】

他はよろしかったでしょうか。

【全教育委員】

はい。

【陣内教育長】

それでは了としたいと思います。議題③「佐世保市通学区域審議会に付議する西地区における諮問事項の件」と議題④「佐世保市通学区域審議会に付議する鹿町地区における諮問事項の件」はあわせて審議したいと思います。

**(4) 佐世保市通学区域審議会に付議する西地区における諮問事項の件
佐世保市通学区域審議会に付議する鹿町地区における諮問事項の件**

【木下学校教育課長】

議題資料P5～P9により説明

【陣内教育長】

ありがとうございました。お尋ねとご意見を合わせてちょうだいしたいと思います、いかがでしょうか。よろしかったでしょうか。

【全教育委員】

はい。

【陣内教育長】

ありがとうございます。両方あわせて了としたいと思います。次に議題⑤「学校教育審議会にかかる諮問内容等の件」についてお願いします。

(5) 学校教育審議会にかかる諮問内容等の件

【藤川学校保健課長】

議題資料P10～P13により説明

【陣内教育長】

学校教育審議会の方に、佐世保市が目指す学校教育のあり方という審議をしていただいております。一昨日答申を私がいただきました。第3弾として次に2月から新たな諮問をしたいということで、部活動のテーマにした諮問を新たにしたいということです。

大きなフレームで言うと、1つ目はスポーツ文化に親しむ機会をいかに確保するかという視点です。子どもたちが文化やスポーツに親しむ機会をいかに確保していくかということです。

2つ目の視点が、教職員の働き方改革です。

3つ目の視点が、これまで中学校の部活動が担ってきた教育価値、教育意義をどう確保していくかです。

それから4つ目の視点が、佐世保市が目指す学校教育の中で、部活動はどうあるべきかということです。

この大きな4つの観点から諮問をしたいと思っております。

それからもう1つの切り口としては、部分的にはいろんな改革が来年度当初にもスタートしていきます。外部指導者をどう確保するかとか、どう合同で活動していくかということをやっていくわけですが、もっと大きく地域とどう連携していくかという展開について、できるところは速やかにしていきながら、大きな展開についてはこの審議会の方で、大きな方向性を見出していきたいという両展開をしていくための1つの施策でございます。

皆様からご意見等ございますでしょうか。

【松野教育長職務代理者】

2月からということでありましたが、大体その答申をいただくまでの審議の日程とかご予約等があれば教えてください。

【大田学校保健課主幹】

審議については、2月から始めまして8月まで5回審議会を実施します。

その後答申をいただき、佐世保市としての推進方針を定め、12月をめどに、佐世保市4

ヶ所で保護者・地域説明会を実施する方向で考えております。

【西沢委員】

中体連との関わりも出てくると思うのですが、その辺りのルールとか細かいチームがどうなっていくといったところの調整などは、合わせてされていくのでしょうか。

【大田学校保健課主幹】

大会参加のあり方については、各市町の動向や県の中体連、それと市の中体連と、ずっと同時進行で協議をしながら、進めているところでございます。

【西沢委員】

出たいけど出られなかったというような生徒さんが、やむを得ず発生するようなことは基本的にはないと考えてよろしいですか。

【大田学校保健課主幹】

学校部活動か、もしくは地域のクラブ活動に入っていれば、今はその中体連にクラブの選手として出るのか学校のチームとして出るのかという選択をして出ることになっていきます。ですので、どちらとも入っていない状況であれば、今は大会には出場できないということになっております。

【西沢委員】

ありがとうございます。

【中村委員】

大きな方向性はよく分かるのですが、現実的に、学校じゃなくて、地域でとなったときに、これが本当にスムーズに作られていっているのかとか、予算がなくて思うようにはつくれていないとか、ボランティアを当てにしているがために、十分なサポートができてないとかそういう問題が起こっているのではないかと推察いたしますが、実際には、理想とする形と現実はどのような形で進んでいるのか、教えていただければと思います。

【大田学校保健課主幹】

先日も、県のシンポジウムに参加して参りました。小さい市町、例えば小値賀町や長与町はすでに一部移行してあったり、南島原市の方は非常に進んでおりまして、南島原市がうまく主導しながら行われています。

ただ、なかなか進まない現状としては、その地域クラブを、誰が運用するのかということです。長崎市の例を挙げますと、保護者会が主体となって運営しているクラブもあれば、地域の指導者が主体として、地域クラブを立ち上げるという例もあっております。その中で、いかに指導者を確保していくのかということが、各自治体が苦慮されているところ

でありますし、どのような補助金を、どれぐらいの期間に渡って補助をしていくのかというところも非常に大きな問題となっておりますので、私どもといたしましてはいろんな市町が行っている今の展開を見据えながら、しっかり課題解決に臨んでいきたいと思っております。

【中村委員】

ありがとうございます。

現状の参考として長与とか小値賀とか、南島原が進んでいるということですね。

ただ、今のお話だと、地域や保護者ということであれば、ボランティア的なことを前提にしてあるのでしょうか。予算措置は基本的には無いということでしょうか。

【大田学校保健課主幹】

市町によって予算の状況は違いますが、指導者に対しては一定の謝金を出したりということで、各自治体が行っているところはあります。

ただ、最初の3年間とか2年間とか、期限付きの予算措置で、その後は各クラブが自走するような、指導支援を行っているということで話を伺っております。

【中村委員】

そのような、最初は補助をしても、後々は成り行き任せということであれば、非常に不安定です。たまたま熱意のある、趣味でもやってくくださるような指導者がいたら、その間は続くけれども、その方が高齢になったり転勤されたりということであれば、止まってしまうということになります。

今まで学校で行われた部活動の教育的価値をきちんと、継承していこうということであれば、ボランティアが前提というのは、成り行き任せみたいになってしまうのではないかなというふうに危惧します。補助金だと、最初の何年間というような仕組みが役所にあるのは何となく理解はできるのですが、今まで学校で継続的に行われたものを地域に移行するというようなことであれば、それは違うのではないかなという気がします。

主体的に何かをやりたい人があって、最初だけ応援してその事業が続いていくということと違って、もともと学校でやっていたものを移行していこうとするのであれば、誰かがやりたくて始めたものを応援するということと違うと思います。

これはもちろん受益者負担の部分もあるかと思いますが、行政や学校が負担して永続的な処置をしていくというようなことも考えないと、ボランティア前提では、いつの間にか、どこも最初はあったけどあとからなくなるみたいなことが起こるのではないかと危惧いたします。いかがでしょうか。

【大田学校保健課主幹】

今のご意見承りました。その辺りについても、この学校教育審議会の中でいろんな分野の方に来ていただくよう予定しておりますので、ご意見をいただきながら、佐世保市とし

ての推進計画を定めて参りたいと思っております。

【中村委員】

指導する方も、それが収入の一部になり、だから続けたいくなるというような仕組みを作っていくというのが望ましいのではないかと考えております。どうぞよろしく願います。

【西沢委員】

改革の理念の中にある学校部活動が担ってきた教育的意義というものは、想像すれば思いつくところもあるのですが、今までやってきたことが変わるときは、やはりある一定受け入れがたい人もいると思うので、その辺りの、何がどう良いからこの改革が必要だというのを、地域の人なり保護者なりに説明しないと、いま中村委員がおっしゃったように、一定期間だけの最初の盛り上がりだけで終わってしまう可能性があるなと思いました。

教育的意義といったところをもっとかみ砕いて、どう子どもたちにとっていいですよ、ひいてはそれがどのように国全体としてよくなっていくというのをご説明いただいた方が、もしかしたら保護者とか周りの地域の方からも協力を得られるのかなと思いました。

もちろん想像はできるけれども、推進するところがこういったメリットがあり、こういったところが子どもたちにとっていいからこれを進めるんですということをしっかり具体的にかみ砕いて説明していただいた方が、もしかしたら理解はしていただけるのかなというふうに思いましたので、1つ意見させていただきます。

【古賀委員】

前にもお伝えさせてもらったと思うのですが、県に、いろんな活動にボランティアで指導者として行けますよという登録サイトがあります。それもぜひ佐世保市でも活用するか、佐世保市独自で作るなどしていただければ、眠っている指導者の方が力を貸していただけるのかなあというふうに思うので、中村委員がおっしゃったようなこともあると思うのですが、活用していただきたいなと思います。

それともう1つ、経済的に部活したいけどできない、諦めなきゃいけないという状況がないようにぜひしていただきたいなあということです。

また、ここには自分がやりたいクラブチームがないから市外に行くというケースがあると思います。例えばバスケットも長崎の中学校に行ってるなど、それで佐世保市の外に出ちゃうのが悲しいので、そこは佐世保市でもこんなに十分活動できるよというふうになるようにしていただければなあと思います。ご意見だけさせていただきました。よろしく願います。

【陣内教育長】

今、委員の皆さんがおっしゃったようなことを恐らく審議会で審議していただけるんだろうなあと思っております。なかなか答えが単純に見つからない、いろんなものが複層し

合っているので、審議委員会の方でしっかりと、いろんな立場の方のご意見を聞きながら精査していただきたいです。

実はこれがスタートしたときは、「地域移行」と言っていました。学習指導要領から部活動を抜いて、部活動は学校の教育活動から抜いて、生涯学習の1つとして位置付けていきたいということです。生涯学習の中で、スポーツや文化活動と接する機会を担保していきたいという、地域移行からスタートしています。

ところが、これまで学校の中で部活動が果たしてきた教育的な意義っていうのは、そんなに簡単に学校から切り離して、「地域だけでやってください」でいいのだろうか、果たしてどうあるべきなのだろうかというのが1つの大きな論点になるんだろうと思います。

それからもう1つの大きな論点になるのが、視点の中の1つとして、教員の働き方改革ということを行ったのですが、これまで教員のボランティアという、微妙に位置のはっきりしない中で進められ、本来必要となるはずのコストが、教職員のボランティアという意味で発生していなかったわけですね。ですからこれを今後担保していくためには、教職員がするにしろ地域の方がするにしろ、これまで発生しなかったボランティアというところを発生するようになってきます。これを、どのくらいまで保護者が担って、どのくらいを行政が担うということも出てくると思います。

これに、応分して、保護者の経済的格差が子どもたちの文化スポーツ活動を制限してしまうということになりかねません。そこはどう落としていくのか、担保していくのかということです。

それからもう1つは古賀委員からもありましたけど、例えばバスケットチームがないから他市に行くのか、強いから他市に行くのかで教育的意義が変わりますよね。接する機会はあるんだけどもっと強いチームに行ってもっと自分は伸びたいから、よその地域に行くんだというのをどこまで担保するのかですね。だから目的によってまた変わってくるんだろうと思います。

今言ったようなところをしっかりと協議していただいて、佐世保の学校教育は何を求めていくのかということに照らして、佐世保のあり方というのを考えていく諮問になっていけばいいなあと思っているところです。

これにつきましても開催の折には皆様にご案内差し上げますので、興味を持って見ていただければ、参加もしていただくことが可能だと思っております。

それでは一応諮問としては今これで上げさせていただいて、この諮問の中に今日皆様からいただいた中身を反映していくように、事務局の方に付言するというので、ご承認いただけますでしょうか。

【全教育委員】

はい。

【陣内教育長】

ありがとうございます。

それでは協議事項に入りたいと思います。「佐世保市第4次教育の情報化推進計画（スマート・スクール・SASEBO構想NEXT）（案）策定について」お願いいたします。

（6）佐世保市第4次教育の情報化推進計画（スマート・スクール・SASEBO構想NEXT）（案）策定について

【鳩山スマート・スクール・SASEBO推進室長】

協議資料P1～P2および別添資料により説明

【陣内教育長】

今回は協議です。リクエストや気になることなど、箇に衣着せぬご意見を存分に言っていただければと思います。

【中村委員】

今ある台数を全部入れ替えるという理解でいいのでしょうか。

子どもたちが使っている一人1台端末というのが、導入してから5年ぐらい経つと思うのですが、一気に全部更新するという理解でいいのでしょうか。

【溝口総務課長】

令和8年度に更新を予定しています。

【中村委員】

端末は端末で8年度中にすべての機械を入れ替え、中身はクラウドにあるものを見ているという理解でいいのでしょうか。機械は新しくなって速度が速くなるかもしれませんが、見るものはクラウドにあるものに繋がっているので、変わらないという理解でよろしいのでしょうか。

【高橋スマート・スクール・SASEBO推進室副室長】

おっしゃるとおりで、子どもたちにとってアカウント変更等はございませんので、クラウド上にあるデータを継続して活用していくことができるということになっております。

【中村委員】

そこから続いての質問なのですが、子どもたちは、小学校が終わって、今まで端末で見ていたものは中学校に行った後に復習しようと思ったら見られるのか、もう繋がらなくなって見られなくなるのか、また、中学校を卒業したときどうなるのかも教えていただければ

ばと思います。

【松本スマート・スクール・SASEBO推進室係長】

おっしゃるとおり小学校から中学校に上がったときは、端末は変わりますが、クラウドは当然継続しておりますので、過去の情報というのは見られる状態にあります。

ただし、中学校から高校に行くであるとか、佐世保市立の小学校から、例えば北中学校に行くであるとかという場合は、その自治体であるとか組織が変わりますので、そちらに引き継ぐというのはできない形になっております。

グーグルの方からも自治体当たり何テラというふうな割り当てがございますので、永遠に延ばし続けるとやはり足りなくなるということもございますので、一応そういう運用とさせていただきます。

【中村委員】

ありがとうございます。

そしたら中学校を卒業したら振り返って見ることは、基本的に必要ないという理解で大丈夫なのでしょうか。

【松本スマート・スクール・SASEBO推進室係長】

中学校を卒業したときに、当然そこをポートフォリオとして振り返ることもあることを我々も想定しております。

個人さんのGメールのアカウントがあると思うのですが、それを作っていただけたら、そちらに移行するというツールがございまして、今までの9年間のメールであるとか、データであるとかというのを引き継ぐことができるように、学習の振り返り等もございますので、そういった形で、今後も活用していただくように考えております。

【中村委員】

Gメールのアカウントで見られるようになるということは、個人のパソコンからそこに接続して、自分が今まで作ったものとかを振り返ったり、親御さんが一緒に見たりということも可能なようなシステムにはなるという理解でいいですか。

【松本スマート・スクール・SASEBO推進室係長】

そのような認識で大丈夫です。今現在も、グーグルのアカウントとパスワードを個人さんであるとか家のパソコンに入れても見られるような環境にはなっております。

【中村委員】

理解いたしました。ありがとうございます。

【古賀委員】

子どもたちのタブレットの入れ替えはあると思うのですが、先生たちは古いのもあれば最新のものもあるというふうに伺ったのですが、先生たちの端末はいかがでしょうか。

【溝口総務課長】

教師用の端末も、適宜更新はしていきます。一度に全てではなく、徐々に変わっていくようなイメージで整備をしていこうと思っています。

【古賀委員】

以前整備したときに、W i - F i に繋がりにくいか繋がらないとかいう地域や学校もあったのですが、そこは全部整備されて、今回はそういうことはなく大丈夫ということによかったでしょうか。

【松本スマート・スクール・S A S E B O 推進室係長】

文部科学省が今回端末を整備するにあたって、一定の通信速度の基準を設けており、佐世保市の場合はモバイル通信になりますが、モバイル通信の場合は、文科省の推奨する速度は2メガ以上です。我々が調査を実施いたしまして、全校2メガ以上になっていることは確認しております。

【陣内教育長】

ギガの第1期が、端末の一人1台端末の整備ということだけ独り歩きしていたのですが、実は3つ要件があります。

1つ目が一人1台端末を子どもたち持たせること、2つ目はクラウド環境を作ること、3つ目は高速大容量通信システムを整備しますということです。

W i - F i を使ってやる自治体に関しては自前でW i - F i を整備しなければなりませんが、うちの場合は一般のキャリアのL T E 回線を使ってやっていきますということで、キャリアであるソフトバンクとタイアップして、全校を調べ直していただいて、通信速度の遅いところには中継基地を全部作り直してもらっています。

2月の定例教育委員会のときに議案となります。それまで受け付けられますので、いろいろお気づきがあったらメール等でお知らせいただければ、アイデアとしても構いませんので、反映させていきます。

ざっくり言うと、これまでの1期で先生たちの技能はかなり高まりました。文科省が実施している調査結果によると、佐世保市が1つの県だったと仮定した場合、どのくらいのレベルにあるかということ、今ほとんど上位5件の県と同じぐらいまで来ています。

相当、教職員のスキルの的には高いです。ところが課題は、先生たちにI C T 機器を使って授業をしていますかという質問に90何%が「はい」と言うのですが、子どもたちに授業の中でI C T 機器をたくさん使っていましたかと聞くと、子どもたちは5割とか6割ぐらいしか「はい」と言えていません。

結局、先生たちは使わせているつもりでも、子どもたちは使っているという感覚にはな

っていません。使う方法が十分ではないということが課題なので、子どもの学びの中にICT機器をどう効果的に使うかという観点が今落ちているので、そこをしっかりとやっていきたいということが1つです。

それから今後のやり方として、生成AIをどう使うのか。まだ国全体も手探り状態なのですが、いくつかの分野で、生成AIがものすごく効果的に活用できるというのが見えてきています。一番は英会話なんです。マンツーマンで英会話の講師とレッスンしているような状態が生成AIでできるようになってきていて、部分的に使っていかなければならないということが見えてきました。

ただ、弊害も大変大きいので、どうやっていくかというガイドラインがなかなか難しいところです。それも含めて、本当に、新しい時代のICT教育をどうしていくかということが次の計画のテーマになっています。

【中村委員】

AIは私たちの会社でもどんどん活用されていて、すごい面もたくさんあるのですが、子どもたちにとっては弊害もあるのではないかと心配しています。例えば、今まで3日かかっていたことが、AIを使うと10分でできてしまったりして、それは本当に驚くべきことなのですが、興奮しすぎてしまって、テンションが上がりすぎて、寝られなくなったりすることがあるというような、そういう健康面のことにもしっかり気をつけないと、まだまだ心配なことはあると思います。特に、子供たちの発育に関して心配しています。

また、最近ニュースでも取り上げられていますが、AIを使ってとんでもないいたずらが可能になってしまうこともあって、そんなことが犯罪につながる可能性もあります。それを防ぐために、AIだからこそ守るべきところはしっかり守らないといけないと思います。

AIが社会の中で普通に仕事で使われるようになることが予想されるので、子どもたちが自分自身や周りを守れるような教育が必要です。それに対する体制を、大人や学校、教育委員会がしっかり整えていくことが重要な仕事だと感じています。よろしく願いいたします。

合わせまして、AI・デジタルの素晴らしいところと同時に、先進的なヨーロッパなどで、記憶の定着や教育の面では、昔ながらの紙の本で学ばせる必要があるというのもニュースの記事で読んだりしましたので、そこも合わせて、全部デジタルでいいのかというときっとそうではないと思いますので、先生方の経験でこれはやはりアナログで並行して使うべきだということも検討していただけたら、子どもたちがより安心して学べる環境が作れるのではないかなと想像します。どうぞよろしくお願いいたします。

【西沢委員】

中村委員がおっしゃったことについて、私も同じことを申し上げようと思っていたところでした。

ITツールやAIは、本当にすごい力を発揮しますが、その一方で、これらの技術には

二面性があると思っていて、使い方を間違えると危険な方向に進んでしまうことがあります。特に、子どもたちはまだ成長段階にあるので、1つの使い方だけを覚えてしまうと、それがすべてになってしまうという怖さがあります。

だからこそ、どうしてAIを使うのか、何のためにITツールを使うのか、これを使うとどうなるのか、そういったことをちゃんと理解させるような指導が必要だと思います。それは学校だけではなく、家庭でも取り組むべきことだと考えています。

この計画を見て、本当に考え抜かれていて素晴らしいなと思いましたが、そういった前提をしっかりとっていただきたいと思います。そうした理解があって初めて、ウェルビーイングにつながる学びになると思います。ITツールを使ったうえでの思考の反芻といえますか、そのような学びができると考えていますので、それを計画の中に明文化していただきたいです。

また、KPIの質問の仕方も少し変えた方が良いのかもしれないと思ったりしました。

「IT授業の中でITツールを使っていますか」という質問だと、先生方は子どもたちの考える力を伸ばしたいからこの授業の中のこの側面ではあえて使っていないんだけど、子どもから見れば、ただ使っていないみたいな見え方になっているのかもしれないので、質問の仕方を、教師の先生方側に出す質問と、子どもたちに出す質問の文章を変えた方が、より細かいところで数値が見られるのかなと思いました。

よろしければご検討いただければと思います。

【鳩山スマート・スクール・SASEBO推進室長】

中村委員からの今のお話も含めてなのですが、大変貴重なご意見をいただいたというふうに思っております。

西沢委員からありました生成AIにつきましては、もう一度国の方からもガイドラインが示されておりますので、どのような弊害があり、リスクがありというところを整理して、本文の中にとということでもありましたので、進めていきたいというふうに考えておりますし、KPIにつきましても、もう一度精査をして参りたいと考えております。

【陣内教育長】

それでは報告事項に入りたいと思います。「学校教育審議会答申について」、お願いします。

(7) 学校教育審議会答申について

【木下学校教育課長】

報告資料（当日配布）P1～P17により説明

【陣内教育長】

ありがとうございました。

ウェルビーイングを育む学校教育のあり方がどうあるべきなのかということで、教育大綱に基づいてウェルビーイングを高めていきたいという視点で、こういった答申をいただいたということです。この答申が全てではありません。この答申を受けて教育委員会としてこれを参考にしながら参酌して、教育委員会としての考えを今後示していくための大変大事な指針をいただいたということになります。ですので、内容の良し悪しはありませんので、まずはよく読んでいただいて自分の気持ちと近いところなどをチェックしていただければと思います。これから事務局の方で具現化策を提案させていただきます。今回はご報告でございました。

それでは次に移りたいと思います。「令和7年度市立小・中学校及び義務教育学校卒業式（教育委員会答辞）への出席について」お願いいたします。

（８）令和7年度市立小・中学校及び義務教育学校卒業式（教育委員会答辞）への出席について

【木下学校教育課長】

報告資料P1～P2により説明

【陣内教育長】

基本的にこれでいきますので、また近まってまいりましたらご連絡させていただきます。ご都合等ありましたら教えてください。

（９）特別な教育的支援を必要とする就学予定児、学齢児童及び学齢生徒の就学の件

【木下学校教育課長】

報告資料（当日配布）P18～P20により説明

その後、次回開催予定日を確認し、終了となった。

- - -了- - -